

2021年3月11日

親愛なる成澤区長様

今日は、あの三重災害から10年目の年です。今までで最大規模の地震、それは巨大津波と福島原子力発電所の爆発を引き起こしました。それは、日本の北東地域の、いや日本全体にとっての重要な転換点です。

20,000人以上の命が失われ、約2,500人が未だに行方不明です。生き残った人々の多くが、長い間、仮設住宅で辛抱しなければなりません。医療的また心理的なケアが新たに組織され、町のインフラが再整備され、同時に災害対策を十分なものとするための構想がなされました。

私たちは、今なお、賞賛とともに日本社会の団結心に深い感銘を抱きます。そして、それは危機管理と復興という局面において必須のものです。また、文京区民が、自らの意思で、そして多様なやり方で東北の町の再建のために取り組み、また、支え合いました。

3月11日は、カイザースラウテルン市において、常に記憶にとどめる日となるでしょう。

私たちは、震災の犠牲者に思いを馳せるとともに、愛する人を失い、数秒のうちに生活を大きく変えられてしまった人たちとともにあります。

私は、あなたと大切なあなたの仲間達に対し、カイザースラウテルン市長の名において、この危機の中でのあなた方の取り組みと、国境を越えてあなた方の連帯心の小さな一部とさせてもらえたことに、敬意と感謝の念を表明します。

大変な距離を越えた両市民たちの団結や参加のおかげで、私たちは、あなたやあなたの職員たちの協力を通して、釜石市の学校や幼稚園の再建に、義援金でもって支援することができました。

今日、釜石の復興が更に進みました。心理社会的、社会経済的な効果は、釜石市において確実にさらに何十年にも渡って続いていくことでしょう。

今日の体験と、確かめてみることに、前を見ることに、これは破滅的な出来事の結果日本で定着したのですが、これが、後々まで続くように形成される未来のための先駆者でありましょう。

私たちは、姉妹都市関係において、可能な限り、喜んで、この道を共に歩んでいきたいと思えます。

カイザースラウテルン市長  
クラウス・ヴァイヒェル